

大学院  
(男女共学)

大 学

短期大学部

高等部

中学部

小学部  
(男女共学)

幼稚部  
(認定こども園・男女共学)



## Contents

- 特集1 創立125周年記念特集 … 2
- 特集2 【大学】活躍する学生たち … 3～4  
注目topic<メディア掲載> … 4
- 特集3 目指せ!子どもたちが探求する小学部! … 5
- 特集4 【中学部・高等部】活躍する生徒たち … 6～7
- 特集5 学び続ける環境づくり(生涯学修事業) … 8

- 学園各部報告 … 9～10
- コラム … 11
- 同窓会だより/ご寄付のお願い … 12



見つめる人になる。見つける人になる。



相模女子大学



特集1

創立125周年記念特集

2025年10月18日 創立125周年を迎えます

女性の活躍を支援し、地域と共に  
発展する「開かれた学園」へ  
— 125周年、そしてその先へ進むために —



風間理事長

1900年の日本女学校創設を起点とする本学園は、創立125周年をむかえます。私たちはこれをひとつの節目として、これまでの本学園の教育活動の意義をあらためて確認するとともに、将来へむけて、社会におけるさらなる役割を果たしていくためのビジョンを構築したいと考えました。それを表現したのが、125周年記念事業基本コンセプト『女性の活躍を支援し、地域と共に発展する「開かれた学園」へ』です。女性がいつそう活躍する社会の実現、それは日々の生活の基盤である地域の発展と一体のものです。

相模女子大学は近年さまざまな地域との連携活動を展開し、「地域貢献度ランキング全国女子大学No.1」の評価を得てきました。そこでは、学生たちが地域の人々との触れ合いを通して、本当の「学び」を体験しています。こうした「学び」を、さらに学園全体で展開し、地域とともに「学ぶ」学園としていきたい。女子教育の歴史と伝統を生かし、よりよい社会を築くための「学びの場」として、学校法人相模女子大学は歩み続けます。

創立125周年記念事業

基本コンセプト

女性の活躍を支援し、地域とともに発展する「開かれた学園」へ

I. 地域社会に開かれたキャンパス  
正門付近をメインとした  
キャンパス整備  
\*II・III・IVを実現するための空間づくり等

II. 卒業生等のステークホルダー  
が集い合う場  
繋がるための環境・仕組みづくり

III. 地域社会での活躍を支える  
開かれた学び  
ポストコロナ社会を見据えた多様な学びの展開

IV. 地域とともに歴史を刻む  
地域の歴史と連動した学園史づくり

周年記念事業

創立125周年を記念し、特設サイトを開設しました。  
特設サイトでは「学園のあゆみ」「記念事業」「学園へのメッセージ」「キャンパス整備事業」「125周年記念誌」「記念事業募金」を掲載しています。  
記念事業やキャンパス整備事業、記念誌については、2025年を迎え、今後更に事業を進めてまいります。その様子は、特設サイトをはじめ、大学ホームページや学園ニュース等を通じて、お知らせいたします。  
また、皆さまからの温かい学園へのメッセージをお待ちしております。

125<sup>th</sup> Anniversary  
since 1900



2025年、相模女子大学は創立125周年を迎えます。



創立 125 周年記念特設サイト  
<https://www.sagami-wu.ac.jp/125th/>



▲こちらからご応募ください

「学園へのメッセージ」を募集しています。  
応募フォームよりメッセージをお寄せください。  
[https://www.sagami-wu.ac.jp/info/gakuen\\_message/](https://www.sagami-wu.ac.jp/info/gakuen_message/)

## 特集2

# 「大学」 活躍する学生たち

【学芸学部メディア情報学科】

グリーンホール相模大野  
（相模女子大学グリーンホール・相模大野図書館・南メデ  
イカルセンター）ロゴマーク  
を学芸学部メディア情報学科  
の学生が考案しました。

1990年1月8日に開館したグリー  
ンホール相模大野（相模女子大学グ  
リーンホール・相模大野図書館・南メ  
デイカルセンター）が、2025年で35  
周年を迎えます。これを記念したロゴ  
マークを学芸学部メディア情報学科塚  
本ゼミ10人の学生が考案いたしました。  
最終的なデザインは、緑と紫のボーダ  
ーラインは「舞台」と「音量調節のボ  
リューム」をイメージ。全体を通して「発  
信」「成長」の意味合いを含めています。

### 制作者コメント

実践的デザインの体験から市場調査  
の分析から制作の意義や特徴について  
知ることができました。

また、担当者の方々との話し合いから  
地域との関わりを感じました。  
どのようなモチーフから劇場らしさ  
が伝わるのか多くのデザイン案を出し、  
考える力が得られました。



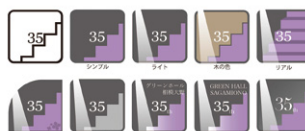
プレゼンテーションの様子



グリーンホール 聞き取り調査の様子



他デザインラフ案



他デザインラフ案



ロゴマーク

代表（最終デザイン） 増田早智さん  
浅野佳子さん、石原萌々子さん、泉理桜さん、薄井菜月さん、金子望乃佳さん  
菊人桜花さん、佐々木美海さん、藤田杏葉さん、堀田李緒奈さん

【栄養科学部 健康栄養学科】  
「栄養士を目指す学生が考え  
たリウマチ患者さんのため  
の楽チンレシピ」の提供。

関節リウマチは慢性の多関節炎を  
主な症状とする自己免疫疾患で、重  
症になると軟骨や骨が壊されて関節  
の変形も起こります。また、慢性炎  
症による倦怠感、貧血、動脈硬化や  
骨粗鬆症などが多く合併することが  
知られています。関節の腫れ・痛み  
のため、日常生活に様々な不便が生  
じ、特に手関節や手指に症状がある  
と、包丁で切る、鍋を持ち上げる、  
しゃもじでご飯を盛るなどの調理動  
作が難しくなります。

そのような状況を踏まえ、今回、  
健康栄養学科の学生有志で患者さん  
向けの献立提案を行いました。まず  
始めにリウマチ専門医による講義で  
疾患について学び、患者さんの日常  
生活での困りごとについて話を伺い  
ました。次に栄養や調理の課題と解  
決方法に関する文献や資料を集めて  
献立作成の条件を考えました。買い  
物が不便な点を解決するために缶詰・  
乾物や冷凍食品を利用すること、  
カット野菜を利用して下処理を減ら  
すこと、加熱は電子レンジを利用す  
るなど簡単に作れるレシピを考えま  
した。提案したレシピは、リウマチ  
薬のメーカーであるあゆみ製薬の患  
者さん・一般の方向けホームページ  
<https://www.ayumi-pharma.com/ja/healthcare/rheumatism/recipe/>に  
掲載され、全国の多くの患者様に紹

介されています。

学生は、献立作成や試作などの取  
組みを通して、疾患の理解、調理技  
術の習得、喫食者を想定した調理や  
献立の工夫など多くのことを経験し  
たと思います。大学の学びをいかに  
る機会を提供して下さった関係者の  
皆さまにこの場を借りてお礼を申し  
上げます。献立作成は今後ともゼミで  
取り組んで行く予定です。



豚もも肉のパン粉焼き



ひじきのサラダ



◀楽チンレシピはこちらから



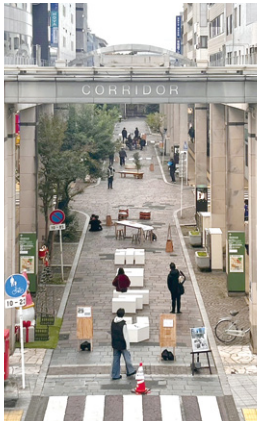


## 特集2

# 【大学】 活躍する学生たち

### 【学芸学部生活デザイン学科】

2024年度、当科は相模原市から委託を受け、相模大野駅北口から旧伊勢丹相模原店跡地へと延びる「コリドー街」（北口商店会の中心に位置）のにぎわい創出に取り組みました。この通りは朝10時から夜10時まで歩行者専用道路（自転車を含む）ですが、伊勢丹の撤退やコロナ禍の影響により、2013年の約3万人から2020年には約1万人と通行量が大幅に減少しました。市はこれまでも市民参加型のイベント等を企画するなど、駅周辺を魅力的なエリアにする取り組みを行ってきましたが、今回は「コリドー街を居心地の良い場に転換する具体的施策」が求められました。この社会課題に対し、当科の「建築デザインⅢ」と「プロダクトデザインⅡ」の授業で3・4年生計18人が取り組みました。フィールドワークを通じ、「誰もがここに居たい」と感じられる場所が少なく滞在時間が短い」という課題の本流を特定し、18のデザイン案を作成。その中から選ばれた8案を学生自ら制作し、11月21日



から24日にかけて現地に設置しました。設置物は、「歩行者天国であることを目で伝えるベンチ」「樹木を日なたにサッと動かせるプランターを兼ねたベンチ」「家庭から廃棄された椅子を再利用した大型ベンチ」「ピクニックしたくなる芝生ベンチ」「住民の意見を集約する落書きテーブル」「アーケード支柱に簡易に取りつけられる本棚」商店街を図書館に変える」「津久井産の間伐材を使った椅子」「朝に現れて夜に消える横断歩道」といった作品です。学生たちは設置期間中、市民に直接説明を行い、反応を観察。多くの市民から好意的な評価を受け、商店会長からも「デザインが単なる装飾にとどまらず、深い意図が読み取れる点が素晴らしい」との高評価をいただきました。この取り組みを通じ、地域課題に対してデザインが貢献できる新たな可能性を探る貴重な経験となりました。



## 注目 Topic＜メディア掲載＞

大学からのお知らせ

Information

125th Anniversary

創立125周年記念特設サイト

創立125周年記念特設サイトはこちら

メディア掲載

メディア掲載はこちら

子育て支援センター

子育て支援センターの情報ははこちら

2025年01月29日

お知らせ

【世界】食安及び売店等の食事営業・休業について

2025年01月28日

活動報告

【生活デザイン学科】櫻井友乃さんが第59回センター系女子美術展覧会に作品を展示しました

2025年01月28日

活動報告

【夢をかなえるセンター・英語文化コミュニケーション学科】本学学生が「神奈川県学チャレンジプログラム」において入賞いたしました

2025年01月27日

イベント

【夢をかなえるセンター】さがみはら・学芸部主催の「インクルーシブ・プログラム開発事業」成果報告会を開催しました（2月12日・土曜）

2025年01月27日

お知らせ

近隣飲食店を刷新しました（1月27日～2月13日）

一覧を見る

「好き!」が学べる相模女子大学

相模女子大学がもつバラエティに富んだ10の学部・学科の学び、どんな学びで発想力を刺激する?

水やこぼれが

好き!

カルチャーが

好き!

表現や創作が

好き!

人と触れ合う

ことが好き!

数える・伝える

ことが好き!

ワクワクさせる

ことが好き!

本学園の教育・研究活動に関わる情報がテレビ・新聞・雑誌等で放送または掲載された際、大学のホームページ＜メディア掲載＞にて、お知らせをしています。本学園の魅力をまとめて掲載していますので、ぜひ＜メディア掲載＞をご覧ください。

メディア掲載はこちらから↓

<https://www.sagami-wu.ac.jp/foundation/communication/media/>



### ■お願い

本学園の教育・研究活動に関わる情報等がメディアに掲載されましたら、学園事務部総務課までご連絡をお願いするガッパ。





# 特集3

# 目指せ！子どもたちが探究する小学部！

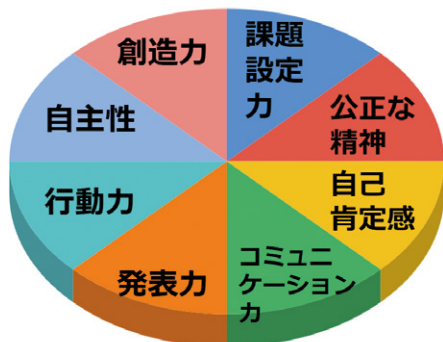
## 探究の時間創設

小学部では、2020年9月に「探究の時間」という学習を始めました。この探究の時間に、児童は、小学部教育で身につけてきた価値観や学習を生かして、自分の興味・関心にもとづいたことを探究することが出来ます。私たち小学部の教員は、この学習を通して、将来を生きる児童にとって価値ある8つの力を育むことが出来ると考えました。



1年生とトンボ

## 将来を生きる子どもにとって価値ある8つの力



当初は、4・5・6年生を対象に始めました。4年半の実践を経てきた現在では、1・2・3年生の探究的学びも、系統的に繋がってきています。

1・2年生は好奇心旺盛で、「何で空は青いの?」「葉っぱにも命はあるの?」と、ふしぎを発見する名人です。教科「総合」で、バッタやモルモット、ヤギのパニラなど、学園の生き物と出会うと、「どうすれば仲良くなれるかな?」と、お世話を通してふしぎの答えを確かめながら、生き物への愛着と、命を飼育する責任感を育んでいきます。

視野が広がる3・4年生は、自分の生活の中にあるふしぎを『ふしぎ発見ノート』に書き留め、スケッチしたり調べたりして追究します。4年生は、「理想



小学部オリジナル「ふしぎ発見ノート」  
3号館の紀伊屋書店にて360円で販売中です

## Feel度 Walk (フィールド ウォーク)



なんとなく気になるものを探し歩く。見つけたら撮る。写真から1枚選ぶ。絵に描く。→探究の種は身近にある!



発表する6年生

のシャボン玉を作る」など、クラスで共通のテーマを仲間と協力して探究します。

5・6年生は、各自の興味・関心にもとづいて自由にテーマを決め、好きなことを個人で探究します。近い分野の探究を行っている児童同士が同じゼミに所属し、お互いに相談や情報交換をしながら学びます。

教員が知識を授ける授業から、子どもが主体の「探究する学び」へと、小学部の教育は変わってきています。我々教員は、探究的な学びの第一人者である市川力先生に師事し、「Feel度 Walk」という歩いてふしぎを感じとる感覚を研ぎ澄ませる方法を教わりました。そして、そこから発展させて「Feel・土・Rodango」という、一人ひとりが理想のどろだんごを目指して、自分の手や足を使って試行錯誤することを楽しむ活動を生み出しました。

小学部の探究は、子どもたちが、好きを追究する楽しさ、人に発表して伝える嬉しさを感じられる時間です。今後も研究と実践を続けながら、より良い学びへと高めていきたいと思っています。

(小学部 天野悟司)

## Feel・土・Rodango (フィール・ド・ロダンゴ)



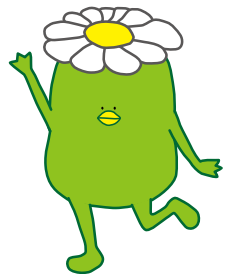
ネット検索に頼らず、自分で考え、自らの足で土を探し、自らの手でそれを丸めて、理想のどろだんごを作り上げ、発表する。→試行錯誤する楽しさを知る!





## 特集4

# 【中学部・高等部】 活躍する生徒たち



### 【中学部】

#### 空手道「形」で世界に挑む！

中学部1学年の小俣陽さんは、今夏に行われた硬式空手道国際選手権大会の平塚大会、また神奈川大会でそれぞれ優勝し、国際大会の代表選手に選ばれました。

#### 【小俣さんの言葉】

私が空手を始めたのは幼稚園年中の6月からです。そのきっかけは、母に「自分の身は自分で守りたいからね」と言われ、何度も見学に行き、納得して始めました。

空手は、2人の競技者が対峙して、互いに空手の技を繰り出すことで勝敗を競う「組手」と、演武の美しさを競う「形」の2種目に分かれています。私は「形」の選手をやっており、審判が上げる旗の数で競います。試合後、勝ったとしても礼儀を重んじる競技なので、その場でガッツポーズはできませんが、その旗が全て私の方に上がったときはとても嬉しくて、心の中で思わずガッツポーズをしています。空手をやる上で難しいことは自分のことは自分にしかわからないため、今できないこと、苦手なことを自分で見つけて克服することです。しかし、そうして自分で見つけた課題を克服できたときはとても達成感があり、「頑張つてよかった、諦めなくてよかった」と思います。また「形」は一人で黙々と納得いくまで練習します。自分との孤独な戦いであるという点もとても大変です。

日本硬式空手道国際選手権平塚大会では、決勝戦の相手が去年の世界大会の優勝者だったというのを試合後に知ったときは、驚きと「私はこんなにすごい人に勝てたんだ」という自信にも繋がりました。また神奈

川県硬式空手道選手権大会は世界大会の予選でもあったため、いつもの大会よりも緊張しました。ですから優勝したときの安堵は大きかったです。今後の目標は8月の世界大会で優勝することです。これからも楽しくコツコツ続けていきます。



硬式空手道「形」で活躍の小俣さん

(中学部1年 小俣陽)

#### 新聞を通して社会と向き合う

中学部では、新聞を教育に活用するNIE活動に取り組んでおり、その一環として「いっしょに読もう！新聞コンクール」に全校で応募しています。自分に関心を持った新聞記事を選び、家族や友人の意見をもらいながら、自分の考えを深めていく活動です。今回、神奈川県審査において、中学部2年生の杉本心希さんが最優秀賞を受賞しました。杉本さんは、生徒にとつての学校の過ごしやすさをデータで計測するツールをいじめ対策などに取り入れる試みについて書かれた新聞記事を選び、自分の考えをまとめました。

#### 【杉本さんの言葉】

今回の新聞コンクールで私が書いた内容は、学校風土計測ツールの記事について批判的に考えたものでした。私がこの記事を読んで考えたことは、いじめに対する捉え方についてです。最近いじめはど

な学校でも一度は起こる「しょうがないこと」と捉えがちです。この現状はデータ化するだけでは変わらないと思います。人にはそれぞれ性格や個性があるので、互いに相手の性格や個性について理解していくことを始めなければならぬと考えました。いじめをなくすにはデータ化するだけでなく、人の関わり方について重視した制度を作ることが、相手に興味や関心を持ち、理解し合うことが大切だと思います。受賞について改めて考えてみると、私にはあまりない経験だったので驚いたのが1番です。また、私の文章を読んでも少しづついじめに対する捉え方が変わってくれば嬉しいなと思いました。(中学部2年 杉本心希)



新聞コンクール最優秀賞の杉本さん

### 【高等部】

#### 創部以来初！JAPAN CUP 準決勝進出！

私たちは中学生1人、高校生17人の18人で日々活動しています。活動内容は、主に夏と冬に行われる全国大会に出場すること、学内や地域のイベントに参加するため練習に励んでいます。毎年行われる相生祭では、GRAMPUSキッズから大学生まで集いグラ



地域のイベントにて演技しました！





夏の全国大会でノーミスの演技をしました!

ウンドで演技を披露しています。チアは人を応援するスポーツです。見てくれた人たちが私たちの演技から勇気・元氣を受けとってもらい、笑顔になってくれるような演技を心がけています。

私たちは、毎年8月に行われているJAPANCUP (チアリーディングにおいて日本一を決める全国大会) の準決勝進出を目標に練習に励んでいます。その結果、2024年の神奈川県大会・JAPANCUP フライデートーナメント (予選) ではノーミスの演技を披露することができました。県大会では第5位の成績を収め、JAPANCUPではチームの目標だった準決勝出場権を獲得することができました。現在は、1月25日と26日に行われる全日本高等学校選手権大会のために日々練習しています。大学受験後に戻ってきてくれた3年生、いつもサポートして下さる先生方とコーチ、保護者の皆様へ感謝の思いを伝えるため、2分30秒の演技に全力で挑み、悔いの残らない演技を披露できるよう頑張ります!

(高等部チアリーディング部部長 飯沼桃香)



地域の夏祭りで演技しました!

## 飛躍の1年間

モダンダンス部にとってこの1年間は部の強みを再認識し着実に結果を掴むことのできた年となりました。昨年の成績を次々に更新し、第36回全日本高校・大学ダンスフェスティバルでは創部以来初の準入賞を受賞するなど、勢いは留まることを知りませんでした。未経験者やさまざまなジャンルのダンス経験者が集まり、同じ目標に向かって切磋琢磨していくモダンダンス部は、個々の良さが輝ける場所です。

1939年、アメリカ南部の人種差別への怒りと悲しみを歌った「奇妙な果実」をテーマに、6月の県大会から8月の神戸全国大会・相生祭・11月の全国コンタイルまで、この「奇妙な果実」を踊ってきました。踊りを見せるだけでなくテーマを伝えるために、作品の核となるモチーフや新しい動きを取り入れたことで、見る人の印象に残る作品になりました。この作品と出合い、仲間と共に踊りきることができたことを嬉しく思い、ここまで支えてくださった方々へ



相生祭発表を終えて、顧問の先生、コーチと



神戸大会舞台写真

の感謝の気持ちを賞という形として残せたことを光栄に思います。新入大会や全国大会に向けて、更なる飛躍を目指し、これからも自分たちのダンスを磨いていきたいです。応援のほど、よろしくお願ひします!

(高等部モダンダンス部部長 高橋瑞穂)

## ひと夏の思いを凝縮させた12分間

私たちは、東関東吹奏楽コンクール高校生の部A部門において、2年連続で銀賞を受賞しました。本番の演奏では練習の成果を発揮できたという実感があつたので、銀賞の結果には、悔しさもありました。けれども、本当にみんなで力を合わせた、かけがえのない12分間となりました。出場順が1番だったため、夏休み後半からは朝型の練習メニューを組みました。本番の日は、何と午前2時に起床し、午前3時から音出しを始めています。そして開演の10時に、課題曲Ⅲ「メルヘン」と自由曲「吹奏楽のための交響曲『ワイン・ダーク・シー』より」を、バンド・ディレクターの関井うらら先生の指揮の下、演奏いたしました。ひと夏の思いを凝縮させて、最後の一音まで集中して吹き切りました。コンクール直前の7月半ばには、コンクールにどのように臨むのか高校3年生で集まって何度も話し合いを重ね、たくさんの壁を乗り越えたことで、再び東関東の舞台に立つことができました。先生方、高校2年生・1年生、11人で神奈川県大会銀賞まで進出した中学生たち、見守り支えてくれた家族をはじめ、ご支援くださったすべての皆様に、改めて感謝申し上げます。

(高等部吹奏楽部 部長 鈴木理心)



12分間の熱演を終えて



## 特集5

# 生涯学修事業 学び続ける環境づくり

## 生涯学び続けるための 環境づくり

## 未来志向の女性に向けた リーダーシップ育成講座

## 産学連携で女性社員の自律的な キャリア育成をサポート

相模女子大学における生涯学修事業は、一九六五年に相模原市と共同で開講した「市民大学」を皮切りに、さまざまな取り組みを行ってきました。この市民大学は、行政と大学が共催する市民向け講座としては全国に先駆けた取り組みで、「地域に開かれた学園」を魅力のひとつに掲げる本学園では、その後も「生涯学修の推進」を目標に掲げています。本学独自の教養講座「さがみアカデミー」や、学生と共に正規科目を受講する「さがみ学びのパスポート」を開講するなど、地域における学びの場づくりを進め、近年では、働く女性を対象としたリーダーシップ講座や、障害者と共に学ぶインクルーシブな講座を開講するなど、独自の取り組みにとどまらず、行政や企業との連携によって新たな学びの場を創出することで、本学園と地域社会とのつながりを深める役割も果たしています。ここでは、本学の生涯学修講座の一部をご紹介します。



リーダーシップ育成講座風景



※リーダーシップ育成講座ホームページ

近年、職場でリーダーシップを発揮する女性が増える中で、自分らしいリーダーシップを磨く重要性が高まっています。一方で、出産や育児などでライフスタイルが変化する女性から、キャリアを描くことが難しいとの声も聞かれます。このような背景のもと、女性が自分らしいリーダーシップスキルを見つけ、身につけることを目指す講座を2022年度から開講しています。必修科目「自分軸に基づいたキャリアプランニング」と3つのエリア(①リーダーシップを発揮するためのコミュニケーションスキル、②仕事をスムーズに進めるための実践スキルと知識、③仕事と人生に新たな発想をもたらすデザイン思考)で構成され、段階的にリーダーシップを学びます。履修証明プログラムとして修了すると証明書が交付されます。受講生の約7割は企業等からの研修派遣で、異業種の女性と学びながら新たなネットワークを築く機会となります。今年度は13名が受講し、非常に意欲的な受講生によって活気に満ちた学びの場となりました。

2024年11月26日、高砂熱学工業株式会社の研修講座として、女性社員向けのキャリア形成講座を行いました。本講座は、受講者が自分の強みを再発見し、リーダーシップスタイルやキャリア形成への新たな視点を得ることを目指す内容で、英語文化コミュニケーション学科の小泉京美教授が講師を務めました。多様なリーダーシップとキャリア形成をテーマとした講義の後、本法人の理事であり、株式会社エフエムさがみ代表取締役の平岩夏木氏とのトークセッションが行われ、平岩氏の経験を通じた具体的な女性リーダーの実例が紹介されました。

この講座には、女性社員13名(対面61名、オンライン72名)が受講され、受講者からは「キャリアアンカーの考え方を初めて知り、視野が広がった」「ロールモデルを見つけるための新たな視点を得られた」といった好評の声が寄せられました。本学としても、企業との産学連携による女性キャリア支援の可能性をさらに広げる貴重な機会となりました。



高砂熱学工業リカレント研修講座



セミナー1部



セミナー3部

を提供し、学び続ける場の重要性を広める機会としています。相模女子大学は、今後も相模原市と連携し、発達・知的障害のある若者や学生が共に学び続けることのできる環境づくりに取り組んでいます。



※詳しくは、本学生涯学修ホームページをご覧ください。

みんなあつまれ！  
大学で学び楽しみ発見セミナー



# 学園各部 報告

## 大学院・大学・短期大学部

### 大学院の授業で、栄養科学に関する一般公開講座を開催しました

博士前期課程「総合栄養科学特論」の授業の一環として、10～11月にかけて、栄養科学の最新のトピックスを紹介する一般公開講座を開催しました。栄養科学研究科は4つの領域から構成されていますが、病態栄養領域は、「ニュートリゲノミクスの視点から考える栄養シグナルと生体調節機能」矢作直也先生（自治医大）と「有機合成化学者のお仕事―生命科学とのかかわり方―」新藤充先生（九州大）、食品栄養領域は、「カンキョ育種技術の最前線」後藤新悟先生（国立農研機構）と「真菌の性質や生態、ヒトへの健康被害について」矢口貴志先生（千葉大）、保健栄養領域は、「子どもにおける孤食と健康との関連」白澤貴子先生（昭和医大）と「台湾の健康・栄養問題と食育」Pei-ying Lin先生（輔英科技大）、栄養生理領域は、「アスリートのための糖質のとり方」塩瀬圭佑先生（宮崎大）と「運動はどのようにして認知機能



公開講座チラシ

能を改善するのか？」三上俊夫先生（日医大）、の8講座を開催しました。大学院生の他に教員や栄養科学部の学生、そして、一般の方も多数参加して、とても興味深いお話を聞くことができました。2025年度も開催を予定しておりますので、多くの方に参加していただければ幸いです。

（大学院栄養科学研究科）

### キャリア教育講演会を実施しました

日本語日本文学科では、1年生を対象とした「キャリア教育講演会」を開催しました。この講演会は、就職活動が本格化する3年生より前のタイミングで、将来の仕事や働き方、そして自分自身のキャリアについて考えるきっかけとなることを目的としています。

お昼の休憩時間を利用し、ランチを食べながらリラックスした雰囲気の中で、本学の職員2名より、学生時代のことをはじめ、自身のキャリア、就職支援課のサポート内容などについてお話しがありました。



講演会の様子

日本語日本文学科では、日々の授業を大切にすることと共に、学生自身のキャリアについても、低学年からサポートをしていきます。

（日本語日本文学科）

### 相模女子大学日本学国際研究所では、シリーズイベントを開催中です！

相模女子大学日本学国際研究所では、紀伊國屋書店新宿本店アカデミック・

ラウンジにて、シリーズイベント「相模女子大学日本学国際研究所と学ぶ・知る・考える」を2024年9月から隔月で開催しています。本シリーズは、本学の幅広い研究分野における日本学に関する研究成果の一端を、ゲストも交えてご紹介していくものです。

これまで、vol.1

『漢文・アニメ・国際』で大喜利する―――典拠を踏まえるオマージュの世界―――『vol.2』歌舞伎の世界へ歌舞伎の映像化コンテンツが秘める可能性――『vol.3』マンガが描く少女マンガ家少女マンガをめぐるイメージの変遷の3回を開催し、いずれも大盛況のうちに講演を終えました。

3月16日（日）には鎌倉市鍋木清方記念美術館学芸員の今西彩子氏をお迎えし、vol.4『日本近代美人画の魅力』日本画家・鍋木清方とその一門を中心に『』を開催します。日本美人画の海外での紹介や評価、鍋木清方の画業と弟子たちの作品を中心に紹介し美人画の魅力に迫ります。

本シリーズは2025年度も引き続き開催を予定しています。詳細は本学ホームページにてお知らせいたします。ぜひご家族・ご友人と一緒にお越しください！お待ちしております。

（日本学国際研究所）



講演中の様子



研究所の紹介をする田畑学長

### 複数大学合同・集団面接・グループディスカッション練習会が開催されました

大学3年生を対象とした複数大学合同・集団面接・グループディスカッション練習会が、神奈川大学で行われました。本学をはじめ、亜細亜大学、神奈川大学、川村学園女子大学、関東学院大学、國學院大学、実践女子大学、白百合女子大学、拓殖大学、中央学院大学、帝京大学、東洋英和女学院大学と12大学から約50名の学生が参加しました。

練習会では、さまざまな業種の企業の方々にご協力をいただき、本番ながらの集団面接・グループディスカッションを経験することができました。企業の方より、良い点・改善点のフィードバックが行われ、他校の学生からも刺激を受ける大変貴重な機会となりました。

就職支援課では、学生に合わせた就職活動のサポートを引き続き行っていまいります。（就職支援課）



多くの学生が参加しました



中学部・高等部

沖繩修学旅行の思い出

私たち中学3年生は、12月に修学旅行で沖繩を訪れました。この旅行に向けて、沖繩の歴史や文化についての授業を受けたり、事前学習を通じてさまざまな知識を身につけたりしました。しかし、実際に現地を訪れ、沖繩の自然や人々の温かさ、伝統的な文化に直接触れることで、事前学習では得られない生きと学びを体験できました。特に、首里城やひめゆりの塔といった歴史的な場所を訪れたことで、沖繩の過去と現在について深く考えるきっかけを得たことが印象的でした。中学校生活の中でも、この修学旅行は特に心に残る出来事でした。初めて飛行機に乗った人や、沖繩を訪れるのが初めてという人も多く、それぞれが新しい体験を通して多くの思い出を作ることができました。修学旅行委員長として、全体をまとめる立場での自分の行動には反省すべき点もありますが、この旅がクラスみんなにとっても素晴らしい思い出として心に残り続けてくれたらうれしいです。

(中学部修学旅行委員長 皆川陽奈子)



平和の広場にて



守礼門の前で

相模大野ステスク・ツリー点灯式

毎年冬になると相模大野駅の広場に、高さ12メートルのクリスマスツリーが登場します。今年のツリーのテーマは「Christmas Harmony」。ツリーにはさまざまな音楽記号が飾られています。2021年より4年連続で出演している3つの部活顧問・部長に今回の演奏会を振り返ってもらいました

【箏曲部】今年度 箏曲部は少人数での活動の中で、箏曲部が伝統的に引き継いでいる曲を選び、練習してきました。少ない人数で演奏する難しさを乗り越え、当日は笑顔で楽しく演奏することができました。

【軽音楽部】昨年に引き続き、電子ドラムとアンプのヘッド部分のみという構成での演奏に挑戦しましたが、有能なPAさんのおかげで、とても良い音に仕上げていただきました。大きなクリスマスツリーを背にした美しいステージと、スタッフの皆さんの温かいサポートに支えられ、とても楽しく演奏することができました。

【合唱部】毎年、部員一同楽しみにしており、どうしたら聴いてくださる方の心に届くかを考えて練習します。点灯式での演奏は、部員にとっても良い経験となります。来年以降も、皆様に歌声を届けられるよう一生懸命頑張ります。

私達が参加するにあたってサポートしてくださった関係者の皆様に感謝申し上げます。(合唱部部长 榊心美)



クリスマスツリー点灯式

小学部

5・6年 鎌倉遠足

小学部は、はじめての「5・6年鎌倉遠足」を、11月25日(月)に実施しました。今回の遠足は、たてわり班(各6名程度・全24班)ごとに6年生が作成した行程表をもとにしたフィールドワークの形で行いました。まず、リーダーの6年生が、班ごとに、行ってみたい場所のイメージを広げ、調べながら、地図を囲んで見学先を決めました。見学ルートは、鶴岡八幡宮を出発し、昼食場所の清泉小学校と鎌倉駅までの経路に、見学場所(荏柄天神社・寿福寺・報国寺・杉本寺など)への移動時間を考えてつくりました。さらに、拝観料なども計算し、準備をすすめました。つくった行程表と当日の注意点を、6年生が5年生にプレゼンし、遠足当日を迎えました。

当日は、雲ひとつない晴天のなか、地図を握りしめた6年生のリーダーが先頭にして、各班一名の現地ボランテニアガイドに見守られ、鎌倉の歴史と文化に触れることができました。鎌倉駅に集合してきた子どもたちの表情からは、充実感に溢れた1日だったことが伝わってきました。仲間と、たくさん歩いて、たくさん話して、たくさんお参りした素敵な思い出がつくれました。6年生からリーダーを受け継ぐ5年生は、今年の経験を活かした行程表づくりへと繋がっていきます。小学部の学びのバトンが引き継がれる大切な一日となりました。



鎌倉遠足

(小学部 藤平剛士)

認定こども園 幼稚部

「あつ、あつたー!」

一歳児クラスのりんどう組は学内散歩が大好きです。夏みかんや柿の実を見上げ、色づく木々に足をとめて季節の移り変わりを感じながら歩いています。百年桜の広場ではバツタを見ついたり切り株に座ったりする姿が見られ、松の木が立ち並ぶ林にある傾斜を四つん這いになって上り、お尻で滑って楽しむ姿も見られています。



「ふわふわしているね!」



「切り株に“すっぽり!” たのしいね」

12月に入り幼稚部の南門前ではイチヨウの葉が落ち、黄色の世界が広がっていました。目を輝かせて落ち葉の上を歩き、ふわふわした感触や葉っぱのこすれる音を感じ、1月には霜柱の上を歩いて心地良さを味わっています。

散歩先で聞かれる「あつ、あつたー!」の指先が指す方には子どもたちのわくわくした発見があります。自然物を見つけた喜びや触れた感覚、感じたことを伝えたい気持ちや笑顔になって溢れており、大きい・ポロポロ・赤い・等を表情や仕草、言葉で表現しています。嬉しい気持ちは友だちにも伝わり同じ物を見つめて微笑み合い、友だちとの関わりが生まれてさらに豊かな感じ方へとつながっています。広大な敷地の豊かな自然を思う存分に楽しみ、こうしてみたいという気持ちに発展する子どもたちの姿を大切に、今後も子どもたちの成長を見守っていきたいと思います。

(幼稚部 濱本)



## 相模女子大学の建物 - 給食センターと浴場 -

かつて、相模女子大学には百年桜のそばに給食センターと浴場があったのをご存知でしょうか。今でも建物自体は残っていますが、何に使用されていたのか疑問に思っている方もいるかも知れませんが、今回はこの二つの建物について紹介します。

給食センターは1975(昭和50)年4月25日に竣工し、5月1日より利用を開始しました。鉄筋コンクリート造及び鉄骨造の平屋建て(672、30㎡)で、収容能力は330席、一日に1,000食を提供していました。当初は寮生の朝食及び夕食の利用が主体で、形態はカフェテリア方式でした。

その後、1977(昭和52)年2月1日には、通学生や教職員を対象に複数献立による昼食販売を開始し、キャンパス内に食堂・喫茶室等がないことから、開設当時は大勢の利用者に親しまれ、午前中の授業が終わると学生たちが我れ先にと駆け込む光景も見られました。

2000年代初期の昼食時の営業時間は11時30分から13時30分まで。メニューは日替わりで、いずれも格安なメニュー(1980年代後半の価格としてカレーライス 200円、エビ天丼 350円、シュークリーム 60円等)が提供されており、各メニューに栄養成分が表示されていました。卒業生によると、生ジュース(100円)が人気で、大学いもやスイートポテトも販売されていた。

2001年に創立百周年記念館マーガレットホール(現…夢をかなえるセンター)が竣工し、その二階部分にカフェテリア(現…カフェテリア1001・Tea Lounge2002)の営業が開始されてからも、しばらくの間、給食センターも昼食の営業を続けていました。

一方、1973(昭和48)年4月、第二たちは寮が開設された際、浴場等も設置されました。277㎡、真ん中に大きな浴槽があり、一度に70名の入浴が可能で、壁伝いにカランがいくつもありました。水とお湯が別々の蛇口から出てくるため、桶の中で混ぜて適温にしていました。浴場の他にシャワー室もありましたが、シャワー室は行列になっていました。しかし、浴場施設は学生寮とは別の建物だったため、寮生は雨の日は傘を差し、寒い日は肩をすくめて歩いて浴場に通っていました。

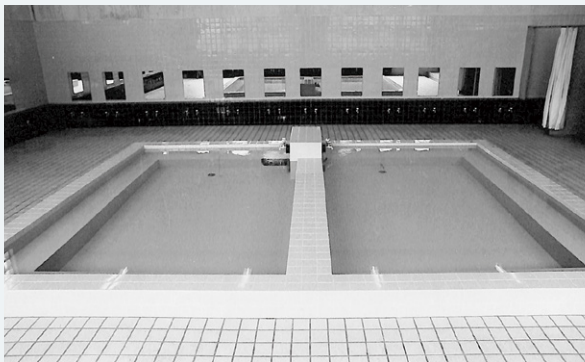
(アーカイブ室設置準備室)



1976年当時の給食センター (風景)



現在は使われていない給食センター (建物)



1973年当時の浴場 (内部)



現在は使われていない浴場 (建物)

### 参考資料

『相模女子大学八十年史』  
『相模女子大学・相模女子大学短期大学部大学案内 2002』  
『学園ニュース 第17号』

### 『学園ニュース 第45号』

『キャンパス・ニュース Marguerite No.3』  
『キャンパス・ニュース Marguerite No.4』  
『キャンパス・ニュース Marguerite No.16』

### 『キャンパス・ニュース Marguerite No.19』

『キャンパス・ニュース Marguerite No.20』  
参考資料に加え、寮生だった卒業生、高等部・大学の卒業生にもお話を伺いました。





## 相模女子の思い出と現在の仕事について 加藤優子

仁愛大学人間学部コミュニケーション学科教授  
(平成8年・学芸学部英米文学科卒業)



越前市と協働で制作した「多言語マップ」

皆様、こんにちは。私は、平成8年3月に学芸学部英米文学科を卒業した加藤優子と申します。相模女子にはたくさんの思い出があります。中学部では銀杏並木を毎朝走り、高等部では友人とよく遊び、大学では先生方に恵まれ、卒業後も懇意にいただきました。という思い出話を綴ろうと考えていたところ、現在の仕事のお話を、とのリクエストをいただきましたので、私の仕事について紹介しようと思います。

私は現在、福井県越前市にある仁愛大学に勤務しています。「異文化理解」「多文化共生論」などの授業を受け持ち、異文化コミュニケーションや移民・難民についての講義を行っています。2024年に北陸新幹線が福井県の敦賀駅まで延伸されたことを受け、地元では観光に関する機運がにわかに高まっており、近年新設された「観光ビジネス英語」という授業も担当しています。

仁愛大学では、地域連携活動も盛んです。私はゼミ活動の一環として、越前市と連携し地域の魅力を多言語で発信する「多言語マップ」を作成したり、年1回開催される福井県国際交流フェスティバルの企画運営委員会に参加したりしています。

研究活動では、福井大学の先生方の協力を得て、異文化理解を促進する異文化トレーニングというゲームをICT上で行うための学習支援シス

テムを実装したり、英国における異文化理解に関する授業研究のために、科学研究費を利用して10カ月ほど渡英したりしました。現在は、英国の研究者と共同で非言語的コミュニケーションに関する教材研究を行っており、2025年には再び渡英を予定しています。

考えてみると、大学卒業後は何かと海外にご縁があり、訪れた国は35か国ほど、英国には総じて6年ほど滞在したことになります。大学生の頃は、ここまで海外に行くことになるなど夢にも思っていませんでしたが、今思うと素地があったかもしれません。きっかけは、在学中に参加したマントバ州立大学への短期語学留学でした。カナダの雄大な美しさに触れ、海外での学生生活に憧れを抱いたものです。最終的には英国の大学院に進学しましたが、その時にお世話になったのが、当時の学長と英米文学科の先生方です。様々なご支援、本当にありがとうございました。

在学生の皆さんも、何か興味を持ったならそれに向かってとことん突き進み、先生方の協力を仰いでみてください。きっと思いがけない可能性が広がっていくと思います。また、同窓生の皆様には、お互い健康に留意して進んでまいりましょう。それでは、またどこかで皆様にお目にかかれるのを楽しみにしています。

## ご寄付のお願いとお申込方法について

「マーガレット募金」及び「創立125周年記念事業募金」を以下のとおり実施させていただいております。ご支援いただきました皆様に対し、心より御礼申し上げます。今後ともご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

125周年募金委員会委員長 速水 俊裕 マーガレット募金委員会委員長 竹下 昌之

### 創立125周年記念事業募金

本学園は、2025年に創立125周年を迎えます。相模女子大学創立125周年記念事業は、「女性の活躍を支援し、地域とともに発展する『開かれた学園』へ」というコンセプトを掲げ、「学園キャンパス整備事業」「周年誌編纂・学園アーカイブ室設置事業」「式典・広報事業」の三事業を実施する計画を進めております。皆様からいただきましたご支援は、この三事業による地域の活性化と本学園の更なる発展に有効に活用させていただきます。

### マーガレット募金

本学園の継続的な発展を目的とし、平成20年度に開設いたしました。使途について、「学習活動支援」「キャンパス整備」「教育・研究活動支援」よりご支援先を指定いただくことができ、また、「目的を指定しないご寄付」もお受けしております。

この中でも「学習活動支援」については、「大学・短期大学部」「中学部・高等部」「小学部」「幼稚部」と支援対象をより細かく指定することができます。

皆様からいただきましたご支援は、ご指定の使い道に従って有効に活用させていただきます。

#### 募金内容

#### お申込方法 (個人の場合)

#### ① お振込 (郵便局または銀行窓口) ② 郵送 (現金書留) またはご持参

詳細につきましては、大学ホームページ (<https://www.sagami-wu.ac.jp/>) をご覧いただくか、下記事務局までお問い合わせください。

#### ③ インターネットから申込の場合

クレジットカード決済となります。ホームページ上の入力フォームに必要事項を入力の上、ご送信ください。



マーガレット募金  
インターネット  
申込入力フォーム



創立125周年記念事業募金  
インターネット  
申込入力フォーム

- お問合せ先 学校法人相模女子大学 学園事務部 経理課  
〒252-0383 神奈川県相模原市南区文京2-1-1 TEL:042-747-9558 FAX:042-749-6500 E-mail:bokin@mail2.sagami-wu.ac.jp
- その他奨学寄付金等のご寄付に関するお問合せ先  
相模女子大学・相模女子大学短期大学部 大学事務部 学術研究支援課 TEL:042-747-9570 FAX:042-743-4916

125<sup>th</sup> Anniversary  
since 1900

2025年、相模女子大学は創立125周年を迎えます。

学校法人 相模女子大学

発行:学校法人 相模女子大学 編集:学校法人 相模女子大学 総務課 〒252-0383 神奈川県相模原市南区文京2-1-1 Tel:042-742-1411 (代)